

昭和女子大学 押谷科研

**2013 年**  
**日本・台湾道德教育**  
**報告書**

2013.1.2 (水) ~ 2013.1.5 (土)

## ■日本と台湾における道德教育

台湾はもともと親日であると言われていたが、2011年3月に起こった東日本大震災では、それが実際に義援金や、復興支援に大きくあらわれていた。

台湾総統府によれば、東日本大震災における日本への義援金はこれまでに57億台湾ドル（約163億円）【2011年5月現在】にのぼり、海外への義援金としては過去最高額となったという。台湾の馬英九総統が「東日本大震災への義援金は、1999年の台湾中部大地震と2009年の台風被害の際に日本から受けた援助に対する恩返しだ」と語ったことを明らかにした。また、2012年に入ってから台湾からの義援金は続いており、同国での募金活動なども積極的に行われている。

では、日本人は台湾のことをどれだけ知っているかといえ、そう多くのことを知らないことに気づく。まして、台湾の教育制度や道德教育については我々が理解していないことが数多くある。

今回は、台湾の小学校との連携をはかり、日本と台湾の道德教育にどのような違いがあるか、あるいは日本の道德授業を台湾の小学生に受けてもらい、子どもたちがどのような反応を示すのか、などを研究することを目的に台湾を訪れた。

### 《 研究概要 》

日時：2013年1月2日（水）から5日（土）に台湾を訪問

研究目的：

このプロジェクトは「グローバル化するアジア社会における道德教育」を目指し、日本と台湾における道德授業の交換や協議会などの参加を通して、日台の道德教育に関する実態を明らかにすることを目的とする。

台湾訪問学校：

#### ■興中国国民小学

嘉義縣民雄鄉興中村 30 號 <http://www.sces.cyc.edu.tw/>

#### ■中埔国民小学

台湾桃園県桃園市永安路 1054 号 <http://www.jbes.tyc.edu.tw/>

#### ■台中大仁国民小学

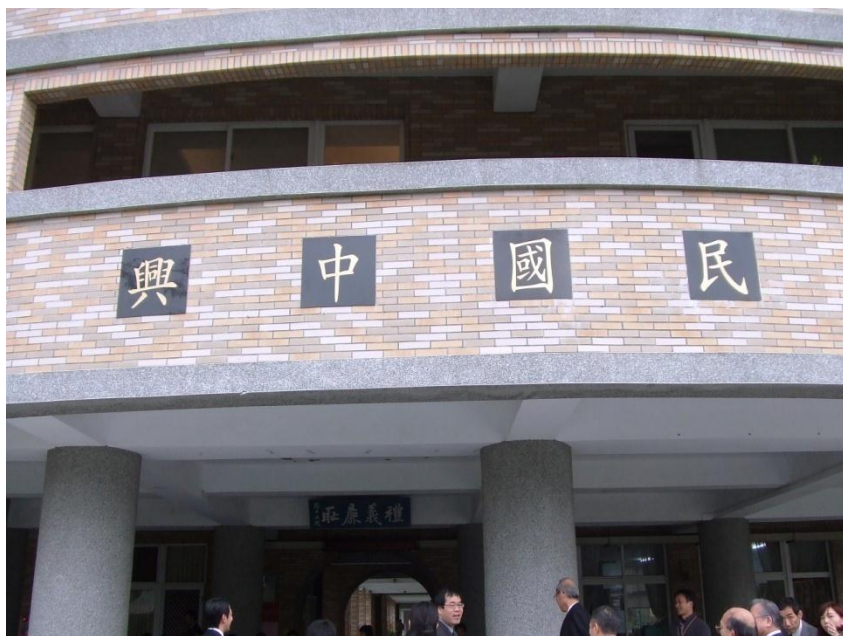
台湾台中市重慶路 200 号 <http://www.dres.tc.edu.tw/xoops/>

#### ■国立中正大学

台湾嘉義縣大学路 168 番 台湾の国立大学。1989年に設置された。

1986年に台湾行政院の審議を通過し、雲林嘉義地区に設置された大学。当時副総統であった李登輝によりキャンパスを民雄郷に定め建設が進められ、1989年に開校した。台湾総合大学システムの一校、大学の代表的なエリアは法学、情報工学、認知言語学、地震研究、情報・メディア・コミュニケーション研究とスポーツ科学である。

## ■興中国民小学訪問(2013年1月3日)



興中国民小学に訪問する前日、1月2日に日本側の教員と興中国民小学教師との打ち合わせにおいて、学校の概要、児童の様子、翌日の授業の打ち合わせなどを行った。

興中国民小学教師の話によれば、児童は非常に素直で、何事にも積極的に取り組む子どもが多いとのことであった。



1月3日、興中国民小学校に到着すると、子どもたちが玄関先まで出迎えに来てくれていた。日本では、正月（年始）は学校は冬期休業中になっているが、台湾（中国や韓国などにも言えるが）では旧正月（2月初旬～中旬）を盛大に祝う風習となっているため、子どもたちは普通に登校し、勉強するようである。

← 児童による出迎え  
(興中国民小学にて)



← 児童から、メッセージカードをいただく。





← 児童によるバイオリン演奏

台湾の子どもたちは、中国の都心部と同じように、学校以外でも学習塾やお習い事などを活発に行っているようである。お習い事としては、日本と同じように英会話やプールなどのほか、楽器やダンスなどを習っている子どもも多く、演奏してくれた児童もとても上手な演奏であった。



← 陳美惠 (Chen, Mei-Hui) 先生による授業: 5年生「ゴンドールのやさしい光」

題材となっている『ゴンドールのやさしい光』は、絵: 葉祥明 文: みなみ ななみの高学年向けの図書。

この絵本は、はじめての国際ボランティアに出かけた青年が、助ける立場と助けられる立場、という関係ではなく、むしろ、わずかなものさえ分かち合う、現地の人々の姿から人が本来持っている、他へのやさしい思いやりの心の美しさを学んだという、実体験が元になって生まれた。子どもたちにボランティアの「心」にありようを考えさせる道徳授業であった。

子どもたちは、画像やイラストによって、より具体的なイメージをつかめたようで、自分の意見をしっかり述べることができたようである。



← 絵などを使って、物語のイメージをより具体的に示す。



← 子どもたちは、題材に対して、素直に関心をもって来ていたようである。



← 日本でもお馴染みの漫画やキャラクターがとても人気ようだ。



← 一瀬先生による授業：3年生

日本の「道徳の時間」に行っている道徳授業を台湾の子どもたちにも交換で行ってみたいという実験的な授業を行った。日本の道徳授業の内容は、ルールや規則を守ることよりも、子どもの内面に訴えかけることによって道徳性を育むスタイルである。台湾の子どもたちは、いつもと違ったスタイルで授業がうまく成立するか不安であったが、非常に大きな関心を示していたように思う。





↑

台湾と日本の位置を地図上で確認する。日本と台湾は地理的にも近く、互いに友好的な関係を保っている。また、日本製品も台湾には非常に多く、子どもたちも身近に感じられたかもしれない。



↑ グループになって自分自身の考えをまとめ、発表する。





↑

道徳授業後に研究討論会を行った。ここでは、日本と台湾の道徳授業の違いについて焦点をあてながら話し合いを行った。日本では心のノートや、ワークシートなどを利用して授業を行ったり、あるいは役割演技など、さまざまな授業スタイルがとられているが、台湾はバリエーションが少ないようである。

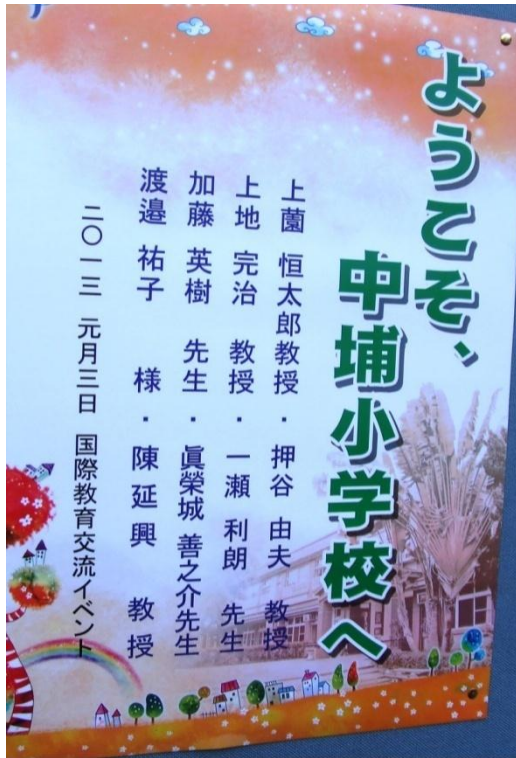
## ■中埔小学訪問(2013年1月3日)



↑

台中大仁国民小学にて：ここでも多くの児童が、学校の玄関先で出迎えてくれた。





学校では、われわれに対して歓迎のセレモニーを開催してくれた。子どもたちは、たて笛を使って合奏してくれ、素晴らしいメロディを奏でてくれた。訪問者に対するこうした歓迎の意を示す行事に、子どもたちを積極的に参加させることはとても重要な体験になると思う。

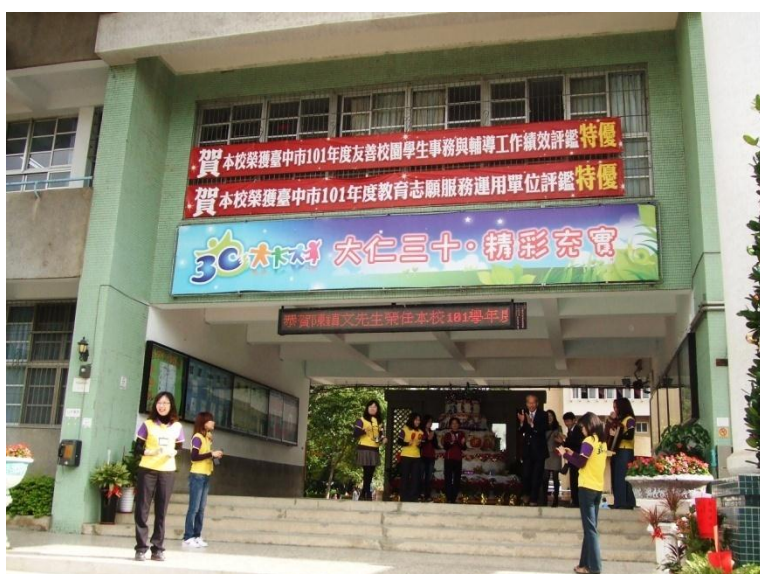
小学訪問後、国立中正大学へ出発し、押谷教授による日本の道徳教育についての講演が行われた。



## ■台中大仁国民小学訪問(2013年1月4日)



← 台中大仁国民小学への訪問



この日は、子どもたちとのウォーミングアップの後、陳怡婷(Chen, Yi-Ting)校長先生による歓迎と紹介があり、一瀬先生による授業：3年生を行った。



← 台中大仁国民小学の児童は、昼食はお弁当を持参していた。日本であれば、グループ(あるいは班)で集まって給食をとるスタイルだが、ここでは個別に前をむきながら弁当を食べているようであった。

## ■国立中興大学訪問(2013年1月4日)



その後の訪問地である国立中興大学では、上菌教授による講演 (at Institute of Professional Development for Educators, National Chung Hsing University) が行われた。これまでの台湾と日本の道德教育に関する研究のプロジェクト内容や、それぞれの国の文化や教育内容を踏まえた道德教育の在り方について提案が行われた。